

【9月・2歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢/男児/活発) (3歳5カ月/4月生まれ)	Bさん(高月齢/女児/活発) (3歳4カ月/5月生まれ)	Cさん(高月齢/男児/静か) (3歳3カ月/6月生まれ)	Dさん(高月齢/女児/静か) (3歳2カ月/7月生まれ)
子どもの姿	1. 衣服の着脱や片付け等の身の回りのことを、きこちないなりに自分でやろうとしている。衣服の着脱だけではなく、畳むことにも意欲を見せている。 2. 戸外で友だちと一緒にかけっこをする等、身体を動かすことを楽しんでいる。 3. 戸外遊びの際に、靴を自分で履こうとするが左右逆になっていることがある。また、靴が小さいせいか、足が入れにくく履きにくそうにしている。	1. パンツで過ごすことを喜んでおり、保育者の声替えてトイレに行き、排尿することができる。 2. 友だちとの関わりの中で、思い通りにならず怒ったり、強い口調になることがある。 3. お盆休みを長く取り、2週間ほど欠席していた。登園時は母から離れられずにいる姿が見られる。		
ねらい	1. 身の回りのことを自分でする満足感を味わう 2. 身体を動かす心地よさを味わう	1. 一日を通してパンツで過ごす 2. 自分の思いを言葉につなげる		
内容	1. 脱いだ服を自分で畳んで片付けようとする。 2. かけっこ遊びやマット遊び等、様々な運動遊具を使って遊ぶことを楽しむ。	1. 自分からトイレに行き、排尿する。 2. 保育者に思いを受け止めてもらいながら、友だちとの関わりを深める。		
環境構成 配慮 援助	1. 自分で取り組もうとしている姿を見守りながら、できた時には一緒に喜び、自信に繋がるようにする。上手くできずに戸惑っている様子には「ここをぱたんするよ」等、やり方を丁寧に伝え、必要に応じた援助をしていく。 2. 園庭にラインを引いたり、「よーいどん」と走り出す合図の声を掛ける等、身体を動かすことの意欲が増すように環境整備をする。保育者も遊びに入りながら、のびのびと身体を動かすことの楽しさに共感していく。	1. 本児の排尿間隔を見ながら、声を掛け、トイレに誘っていく。自分から尿意を知らせることができた時には大いに褒め、自信に繋げる。 2. 玩具の貸し借りや遊びの中のやり取りを通して、友だちとの関わり方を知ることができるように援助する。「Bさんも一緒にやりたかっただね」「貸してほしいみたいだよ」等、思いを代弁していくことで、言葉で表現できるようにしていく。		
食事	・少しずつ食べられる食材が増えている。 ・苦手な食材でも、自分から食べようとしている姿を大いに褒め、意欲に繋げていく。	・おかわりをしたくてかきこむようにして食べている。 ・「もぐもぐだよ」「ゆっくり食べようね」等、声を掛け、安全に食事ができるように留意していく。急いで食べなくてもおかわりができることを伝え、ゆったりとした雰囲気の中で食べ進められるようにする。		
家庭の連携	3. 戸外での活動が増えるため、身体に合ったサイズの靴を用意してもらう。 ・残暑が厳しい日が続くため、体調の変化を見逃さず、十分な休息を取りながら過ごせるようにする。	3. 登園時はすぐに部屋に入らず、保育者と一緒に母を見送り、廊下で気持ちが落ち着くまで過ごす等、安心して園生活に入れるように関わっていく。 ・パンツを穿くことへの意欲が強く見られているため、家庭での様子を聞きながらトイレトレーニングを進めていく。		
評価・反省	1. 衣服の着脱や畳み方等、自分でやろうとする姿が見られ、上手できると「できた」「見て」と保育者に見せて嬉しそうにしていた。引き続き、本児の意欲を尊重し、自分で取り組もうとする姿を見守っていく。 2. 保育者や友だちと一緒にかけっこや鬼ごっこ等、身体を動かして楽しんでいた。遊びの中で友だちとトラブルになる場面も見られたが、自分の思いを言葉で伝えようとしていた。気持ちを受け止めながら、状況に応じて仲立ちをしていきたい。	1. 本児から尿意を伝える姿はあまり見られなかったが、保育者が声を掛けると進んでトイレに向かっていた。遊びに夢中になると漏らしてしまう場面があり、「出ちゃった」と保育者に知らせていた。こまめにトイレに誘いながら、成功体験を積み重ねられるように援助したい。 2. 友だちとの関わりを見守り、トラブルになりそうな時には、思いを言葉で伝えられるように援助した。気持ちが高ぶっていくと、一方的に思いを主張する姿もあるため、じっくりと気持ちを受け止めながら仲立ちをしていきたい。		

無料版：2名分
↓
有料版の
"おまもりプラス"
は12名分が
閲覧 & DL可能！

子どもの姿の1, 2は『内容/ねらい/環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記: LGBTQ+の観点から、『くん』『ちゃん』などを使わず、『さん』で統一しています。ただし、発達段階の観点では性差はあると考えられるため、男児/女児としています。